

文化に特有とされる行動傾向は、当該文化を生きる人々の自己観や選好の反映ではなく、その社会（より正確には制度）への適応戦略として理解できる(Yamagishi, Hashimoto & Schug, 2008)。Yamagishi ら(2008)は、Kim & Markus(1999)が行ったペン選択実験を追試することにより、「同調性への選好」の反映として理解される多数色ペン選択行動を、他者からの悪い評価を避けるため（また、そうすることで集団からの排除可能性を低減するため）の“デフォルト”の適応戦略として議論している。本研究の目的は、Yamagishi ら(2008)がシナリオ実験によって示した結果を実験室実験によって追試するとともに（実験 1），“デフォルト”のペン選択行動がいかなる心理傾向と関連するのかを分析することで（実験 2）、彼らの議論が妥当かどうかを検討することにある。実施した 2 つの実験結果はいずれも、Yamagishi ら(2008)の議論を支持するものであり、デフォルトの適応戦略として文化特定の行動を理解する「文化への制度アプローチ」(Yamagishi, 1988a, b; 山岸, 1998; Yamagishi, Hashimoto & Schug, 2008)の妥当性が示された。